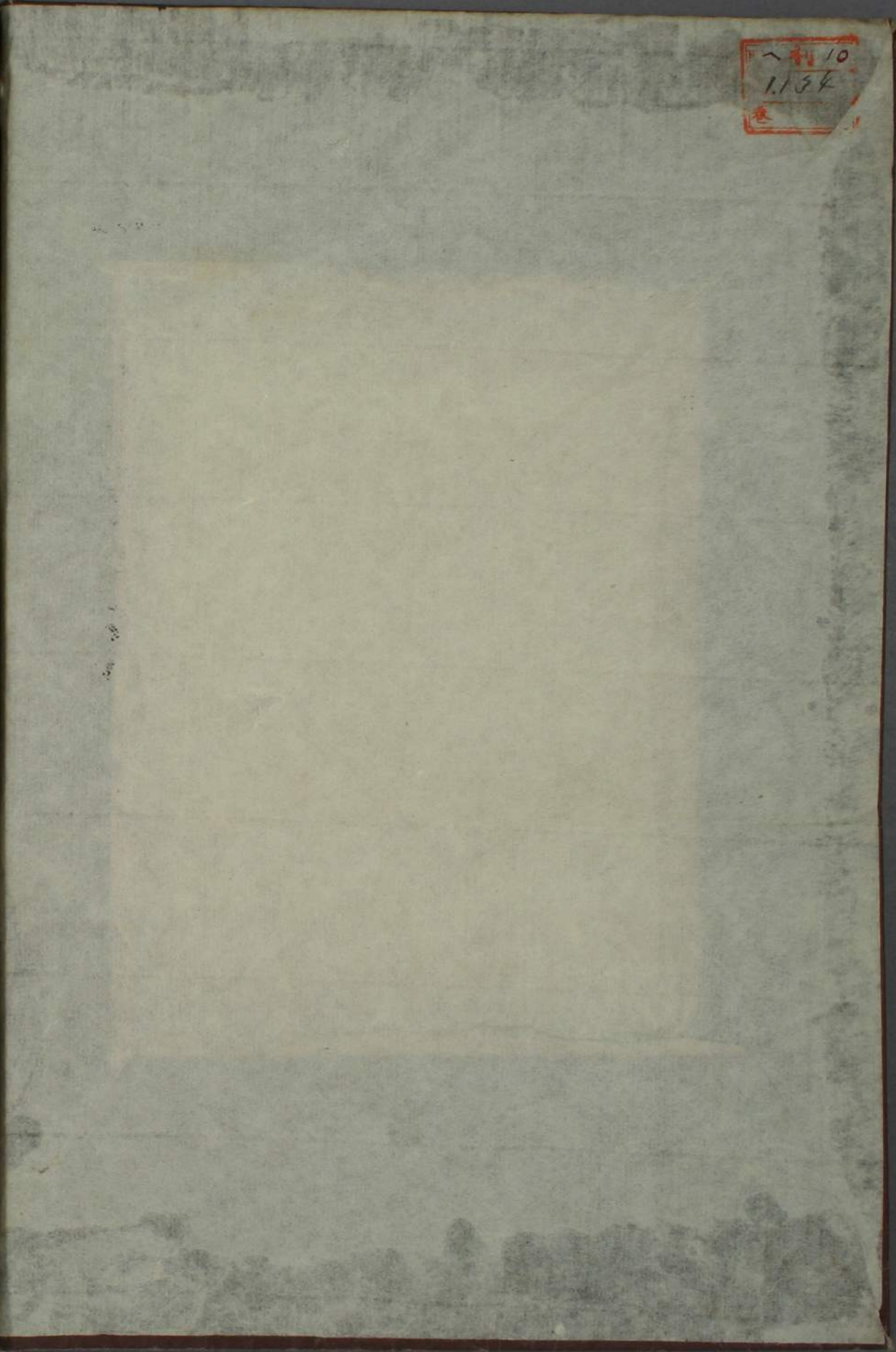
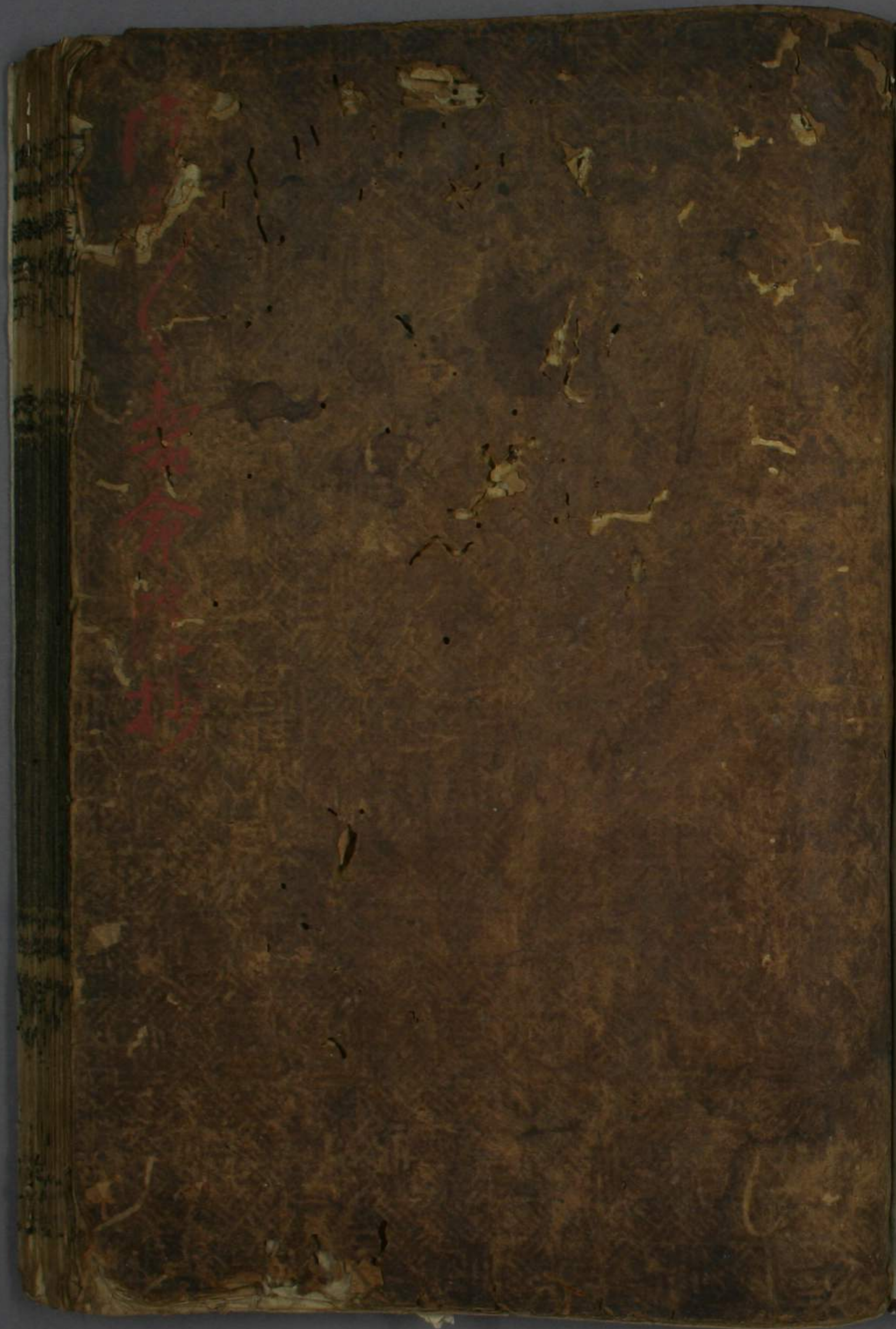


徒然草抄
其書活字本
零本





10
1134

1134



三花ハ廿カリ三月ハクニナキヲノミ見ル物カハ



ハミト云字簡要也花盛月ノクマテキヲメツル事

勿論也クニナキハクモリナキト云心也河海二阿

ノ字也又曲ホモ

一タレコメテ春ノユク子

タレコメテ春ノ行モシラ又ニ三待シ櫻モウツロヒニケリ

一カタクナル人トハ心カタクナシキ人也頑ノ字也

一萬ノ事モ月花ノミニアラス萬ノ事モト也モノ字心

アリ

一カシテレハハオモシロケヒト云心也

一ハテヤ之也 是ヨリ色好ムトハイハメト云ニ云ヒタ
スラヒ見ニハアラサル情ノ深キ也

一遠キ雲井ヲ思ヤリ 遠境ヲ隔タル中也

一カスルオヨ程ハ雲井ニ成ヌトモ

一白雲ノ八重ニカホナル

一モ千月ノクニナキナ モ千月ハ十五夜ノ月也

望月日十月下相ノソムノ義也又望ハ満也ト注
キミツルノ義也

千サトノ外ニテ

三五夜中新月色二千里外ト

一スヘテ月花ヲハ ユニテハ望月ノ阿ナキヨリモ村

雲カクレ木ノ間ノ月ナトノ面白キヲ云是ヨリハ

目ニ見サレトモ心ニメツル義ヲ云也

一ヨカラヌモセス目不暫捨ナト云類也ソラヌモソラニ

モセヌモモル也

一川大井河岩彼々之筏土ヨ峯ノ紅葉ニアカラヌナマソ

コサヤウノ人ノ祭ニシサニ 是ヨリ以下祭ヲニルニ付

テ人ノフルニヒノヨシアシテ論スル也

一ツリトハ賀茂ノ祭也四月二番メノ酉日也

一棧敷ノヨリナリトテ祭ノワタルヲ待ホト棧敷ニ居ル

事無用ト云心也

一アヲソヒハレルノホリキ、奥ナル屋ヨリ棧敷へ俄ニ我
サキニトノホル也

一宮古ノ人ノエ、シケナルハ、エ、シトハ善惡ニツカフ
詞也コ、ニテハホメタル詞也

一アフヒカケワタシテ賀茂ノ祭ノ日アフヒヲカクル也
一キエノシクモ、美麗ノ義也

一タテナラヘツル車トモ、見物ノ車トモ也
一ラウカハシキ、亂カハシキ也
タカホニラウカハシキ大路ニ立キハシニシテトアリ

ス又シタ、ミ、棧敷ノ道具也

一出ノタメシモ、今日ノ世間ヲ引ウケテ也
一大路ニタルコソ、祭ノ大路ノ體ヲ見タルニテ世間

盛衰物ノ衰ヲ知コソ本意ナレト云心也
一コ、ラ、巨、等トハ多也、源語類聚ニ

一此人ミナウセナシ、後、是ヨリ無常ヲ云也又此心
ハ世上ノ以カ我ヨリ先ニ死メ後我ハ死ルトサタ

マリタリトモホリナク待ツケ又ヘシト也祭ノ當日ニ
見タル人ハ皆世間人也

一大ナル魚ハ物ニ水ヲ入漏刻ノ水ノモリツタル喻也

一シタ、山、滴、一、タツツ、モルトモ也

一ヒロキヒサクモノ、棺ツクリテ賣者也

淮南子北四、曰鬻棺者欲民之疾病

棺、和名集云音貫比度岐所

以盛屍也、和名ニハヒトキトアレトモヒツキト

云モ五音相通也

トサ、トハ鬻ノ字也、賣也、死人ヲハル棺ヲ作リテ

ウルニウチヲタ、モナフウル、ト云義也

一、ニ、コ、タ、テ、ト、イ、フ

二、一、三、五、二、二、四、一、一、三、一、二、二、一

黒白石、十二當ルヲ除

是ヨリヨシ始也、ナメクニアタルナリ

一、下、又、キ、脱、ヌ、ク、ト、ヨム

一ツ、年、ハ、是ヨリ武士モ出家モ死スル道ハ不定

也、ト云事ヲ書タリ覺悟スヘキ事也

ニ祭スキ又シハ後ノアフヒ

是モ祭トハ賀茂ノマツリノ事也、四月ノ中ノ酉

日也、昔シ夢ノツキヨリ當日人ニアフヒ桂ノ瀉

ヲカクル、云事、事根源ニ見ハタリ禁中又ハ請

家ノ薦其外外道道具具文書等ニモカケル也榮雅
ノ歌ニケフトイヘハ榮カハアフヒ草アルキ尺三モ
一キソヘテケリ

後ノアアヒカヨウトハ祭過テ後ノ古キカレタルアアヒ
ノ事也フヨウ心無用也不用也

一ヨキ人ノミタヒシ事ナレハ
ルキアアフヒヲトリスツ
山事且キ人ノセラレタルト也

一周防ノ内侍周防守繼仲カ女後冷泉院ノ女房
也カクレトモカヒナキ物ハトト此歌フルキアアフヒヲ
置タル據也

一フルキ歌ノユト書ニカレタルアアフヒニサシテ

新古今ニハヤウ物申ケル女ニカレタルアアフヒヲ
アレノ日ツカハシケル

古ハアアフヒト人バトカム共猶其カ之ノケアソシ忘ヌ
枯ニケルアアフヒノニコソ悲ケレ哀トニスヤモノニツ垣

一枕草子 清少納言作 三冊アリ

一アスタニ 樂五 五月五日小兒ノ袖ニ懸之以五
色彩作之為攘惡鬼也又名長命縷又申續

命縷 見于下學集

一鴨ノナキキラカ四文字ノ物語鴨長明作西卷アル

枇杷ノ身太后宮 昭宣公御女朱雀院母后

穩子

一折ナラ又子ヲ 千載集ニ 弁乳母

アヤメ草邊ノ玉ニ又キカヘテ折ナラ又子ヲ猶ソカケル

返シ 江侍從

五又キシアヤメノ草ハアリナカフ淀野ハアレシ物ト

ヤハシシ 淀野ハ夜殿ニ寄タル也アヤメ草ヨト

ノニ生ル物ナレハ寝ナカフ人ハ引ニソアリケル

三家ニアリタキ木ハ

一八重櫻ハナラノ宮古

イニシヘノナヲノ都ノ八重櫻今日九重ニ句ヒ又ル哉

一左近ノサクラ禁庭ニ右近ノ橘左近ノ櫻トアリ

一トヤウノ物 異風體ノ義也

一子千ケ 倭ノ字也口キカマシキ事也

一サラ坂ヤ見手カシハノニキモテトニモカクニモサ千ケ人哉

一石千タシ 事外也コトクシキ心歎

一京極ノ入道中納言 定家卿也

一メテタキ物也 愛人ノ物也ト云事也

一キ千カウ 桔梗也字ノ字ニ通也

秋千カウ野ハ成ニ露ノ多ケル草葉モ色カ分ケル
一シヲニ紫苑也 形ノ字ムニ通也
一ワレモカウフチハカニト云草也

引^ササシ野ノ霜枯ニシワレモカウ秋シモツトル句成ケリ
一ヤカナルチイサキ心也 河海ニ細^{サヤカ}許少

四 身シラテ財ノユル事ハ

一コキダクトハコトクシキ心也又事外也

五 悲田院ノ堯蓮上人

一サウチキトハ無雙又ハ無左右ナラフ者ナキ也

一アツノノウサコソノウサトハ猛者也

イ本ニアツマノ人コソトアリ是ナルヘキ歟

一マトノミヨクテイ本コトウケノミトアリ何モ同意歟

一聖堯蓮上人也 是ヨリ善ノ詞也

一ヤヤクニ基^キキ心也 尤ケヤケシ

一トモシクカナハ又人ノミ 不如意ノ心也

一ホイトツラ又事 本意トツラ又也

六 心ナシトモモノモ

一ヨキ一カハ一言也

一アラヒヒストハ必ナキ明舎人也東夷西戎南蠻北

一狄何モゴヒス也

一恩愛ノ道妻ナヲ思フ道也

一スルスニテ世クイ本ニスニヤカニテ候トアリ惡也

一沙石集第四樂天ノ詩ノ沙汰有ケリ匹如身

後有何事應向世間無所求云スルスト云ハ

人ノ一物モ手ニモタテ行自也下郎ハスツスニト

イハル應向ハ足フニタテヌト云事也所住ナクハ

杖ツクホトノ地モ持ヌト云カ如シ一物モタクハ

ス少分ノ地モ持ヌメ拜ハテタル身ハ萬人世間

ノ事トクメ佛道修行シツヘシト云談義云

一ホタシホカル

世ノウキメ之エ又山路ハイフニハ思フ人ヨリホタシ成ケシ

一ムケニホモヒクダス無下也一圓ノ者ト思也

一ホカ事正意ニシラサル也解事

一ゴトニカナシカラシク親ノタメ妻ナノタメ

是ヨリ下孟子ノ以テ書タリ

孟子曰無恒産而有恒心者惟士為能若民則無恒産因無恒心苟無恒心放辟邪侈無

不爲也及陷於罪然後從而刑之是罔民也
焉有仁人在位罔民而可爲也
注恒常也產生業也恒產可常生之業也恒
心人所常有之善心也士嘗學問知義理故
雖無常產而有常心民則不能然凡民迫
於飢寒則不能守其常善之心矣罔猶羅網
老者衣帛食肉黎民不飢不寒然而不王者未
之有也注言制民也產也法也

ツ子ノ産ナキ時ハツ子ノ心ナシト云ハ民ニカ
ル也
ツ子ノ心トハ學問ヲ義理ヲ知タル人ノ心也民

ハソレニカハハラス産トハ生業トテ田ヲ作リ身ノス
キワイ也公務ニヒ一ナク耕作ヲササレハ常ノ産ナ
シ又常ノ心モナシサレハ飢寒ヲ調ハキタヨリナキ
故ニ盜ヲシ惡行ヲナスホトニ囚トナリ憂ヲナスサテ
民ヲアハレシ安穩ナラシメントナラハ國主ノヲコリ
ヲヤメ民ヲナク農作ヲサセハ凍餒トコ、ヘウエル
患ヘナケレハ下民身ヲサメテ成敗ノ難ニアフヤ
ウナル盜ヲセヲト云事也以上長々シキヘタナル
注ヨリモ本文ヲ以テシテ草ノ文ニ別當テシハ
ヤスク聞エシトモ下機ノ爲ニタク書也

一凍餒ノケルレニ 凍ハユニル也餒ハウユル也

前漢書曰聖王在上而民不凍飢者非能耕而食之織而衣之也

又曰飢寒至身不顧廉耻

一水ニナハシ事 罪科ニツコナハシ事也

一人キハニリテヌスニハ

禮義生於富足盜賊起於貧窮

七人ノ終焉ノアリサニ

レウエンハ 臨終ノ事也

一イニシカリシ イニシキハ善惡ニ付テ用ル詞也

コ、ニテハ善ニ付タル詞也臨終ノ一段トヨカリシ事

ヲ人ノ語ルツ聞ト云義也

一アヤシクコトナル相ヲカタリツケ

奇特ナル瑞相カアリタルナトカタリ付ル也

カタリツケトハ無事ヲカタリ付ル也

一コトハモアルヒモトハ其ノ死タル人ノ詞モ行跡モ也

一權者トハ佛菩薩ナトノ衆生濟度ノ爲ニカリニ此

界ニ生レ玉メシ云也權化ノ人ナト云モ同事也

一サタムヘカラス權者ノ終ニ焉ニモ定テ奇特奇瑞ハ有

一トシキナリ博學ノ士モ同之

八梅尾上人道ヲ明慧上人ナクシ

一宿執開發ノ人前生ニテ修練シタル功德ノ開

發メ今阿字ヲ唱ルト云心也又自然發得ヲモ

宿執開發ト云也

一トシヤウ殿府生殿也近衛ノ門兵衛ニアル官

也諸衛トモ六府トモ云也

一阿字本不生

一阿字本不生者真言宗秘傳ノ密觀也

大日經有情及非情阿字第一命文

又密經ニ阿字ノ諸法本不生ト云或我覺本

不生ト云新羅國靈妙寺之僧不可思儀釋メ

曰秘密中ノ秘釋トハ若阿字自說本不生

真言之諸經ノ中阿字第一命炳現阿字諸

法本不生我覺本不生トハハレトモ阿字本

不生ト連續シタル文ハ無之ト末ノ師ノ釋ナト

ニハアル事有ヘシ釋ニ無トモ阿字二本不生ノ義

モユモリテ有ササソ摠メ密宗ノ上ナルホトニ真

言家ヘタツ又シトモ道理ヲヨクスニメユイキカセラ

シ又ソ其ノ道理ノスニ又所モ又本不生歟ハソ

九御隨身秦ノ重躬

能イ

一師艾ノ馬

文選籍田賦曰龍驤騰驤而師艾注沛ハ

皆馬行良塩囊抄ニ文選ヲ引テ云師艾トナ

ホリヤセトヨ馬ノ武クヒフムヲ云

一此相ヲキホセ侍キ

オホセトハ課ノ字

也相ヲフナウヲ云會課試也計也稅也

程也桐壺ニヤニトサウヲキホセテトアリ

一イッカハ申アヤニリタル

何ニソ也イッレカハ也

十明雲座主

明雲ハ父我太政大臣雅實公

ノ孫顯通卿ノ子也

一箭ニアタリテウセ給ヒケル

壽永ニ木曾義仲院御所法住寺殿へ押寄

火ヲカケシカハ官軍敗北シ玉ヒキ其時明雲

モ箭ニアタリウセ五フ也委ク平家物語ニアルソ

土灸治アニ文所ニ成ヌレハ

一格式 律令格式トテ皆本朝法度ノ書アリ日本
書目録ニ詳也

十四、十已後ノ人灸ヲ

明堂灸經曰男子三十已上不可灸三里

三里ハ所以下氣也

三里穴在膝下三寸足陽明經也 有口傳

一鹿昔ノ鼻ニアテ

本草曰孟洗曰主益氣不可以鼻嗅其茸中

有小白虫視之不見入人鼻必為蟲類藥不

及也 瑣碎錄云鹿昔麝香肉菴蓉切

不可就鼻聞盖有微蟲

能ツカントスル人ハ也

藝能也稽古萬事ニシタルヘキ事也

一ウキク内之也

一ケンコカタホナルヨリ一向初心ナル時ヨリト云心也

一ツレナクスキテ強面強顔ヲモテヨク藝能ニスキ

テト云心也

一天性其骨トケレトモ其骨トハ器用ツテ功ノ

入タルヲ云今コニテハ器用ト云事也生レツキ
ノ器用モカクシトモト云事也

一ナツニス ト、コホラ又心也 泥ナツムハ藝道ニスキ

一堪能ノ 藝能ニタヘタル器用也 神ヒリイ云心也

一此義專要也器量ニメ大カタ上手ト云テモ平生
無嗜ナレハワルイト云心也其道ニスキタルニ窮ル也

一徳タケ タケハ長スル也

一不堪無器用ノ義也カナハ又心也

一カキンモアリ 耻トトカク事モアル也 瓊瑾兩字

トモニタニノヤス 能幹能云其音繼香肉蘇蓉也

一道ノオキテタ シク 法度也 皇ノ御介ノ入也

一放埒セサレ 之タリニセサル義也 宿牌中職也

一世ノハカセ 世ノ物シリニメ也博士ヒロクシル人ト

云心也

或人ノイハク年五十

論語第九 子罕篇曰四十五十而無聞焉

斯亦不足畏也已矣

一衆ニシハリタルモ 人ニシハリタルモト云事也

一生涯トハイタル 一期ト云事也

一ユカシクオホエム事トハ其藝ノユカシク思ナラハ也

一キホツカナラスシテトハ不審サヘナイホトナラハ也
一モトヨリ望事々クシテ、コノ結句殊勝也

西大寺ノ靜然上人

西大寺ハ若天平神護元年稱德帝建鑄四

天王銅像長七尺云 元亨釋書二

一西園寺ノ内大臣殿 又竹林院号 西園寺

左府 公衡公ノ男實衡公也内大臣正二

一資朝卿日野ノ俊光卿ノ三男資朝權中納言

從二檢別當後醍醐天皇ノ時代ノ人也

一老カラスレテ 髡 サラホク 莊子ニ云カラスレテ

一此氣色ノタウトクニエ候トテ 此段内府ノ靜然上人ノ老體眉白ク腰カ、

此段内府ノ靜然上人ノ老體眉白ク腰カ、
ル又ハ見ル所計ノタツトクニエルトハ老タル故也

老タル物カタツトク見ルナラハ此ムク大モ老タルト
テ内府ヲ打テマイラセフレタリ但靜然上人才

智ノホト傳記ヲ未考サレトモ此文段ノ心サヤウ
ニエタリ

其 爲兼大納言入道メシトラレテ 毗沙門堂

大納言爲兼卿佐度嶋流罪於彼地詠和歌

三十三首共内二首ハ三十一首ノ上下ニヨ
之入其ヲクテ阿弥陀佛ト云文字ヲ句上ニ置五
首ナラヘテヨミ其アマタフツヲ豎横スチカヒニ歌ニヨ
メリ依之赦免アリテ嘉元二年ニ歸洛彼自筆
ノ歌宇治ノ寶藏ニ籠待リト有書ニ見タリ五七
五七ハ長歌下ノ七文字ハ文字ハサリ也

定家 爲家 爲教 爲兼 權大納言正二位
應長元依勅撰進玉葉集正和元年奏覽
之同二年十月十七日出家同四年十二
月廿八日東使トメ召トラレ佐渡流罪見于

公卿補任

一六波羅へ井ア行ケレハ 將井テトハツレテ行也

六波羅トハ比條ノ時ヨリ兩人ノ代官ヲスヘテ兩
六波羅ト号ス京都并ニ兩國ノ政道ヲ沙汰サ
セラル也

一マナウラヤレシ世ニアラン思出カクモソトハ

此詞日野中納言資朝卿ノ云レタル詞也ウラ
山シカラレタル事本意ニ趣シリカマシ爲兼召ト
ラレシ事太平記ハ見エ又也公卿補任ニアリ資
朝卿モ後醍醐天皇御隱謀ノ事露顯メ六波

羅ヨリ召トリ錦倉へ下シ其後佐渡嶋へ流罪アリテ果メ奉行ノ本間山城守ニキラレタリ辭世ノ頌ニ曰五蘊假成得タリ四大今歸空將首當白刃ニ截斷一陣風 見于太平記
右資朝卿ソ為兼ノ大納言召トラレメルヲアナウツ山シト云レタル其願望ニヤ叶ハレケン其身モ召ラレ同シ配所へ流シラレタリ為兼カ後歸洛アリ資朝ハ於配所首ヲ子フシタル也念願アリ叶過タルニヤ
此人東寺ノ門ニ

此大資朝卿ヲ云也前段ノ餘論ノヤウナル書出テトモ心ハ各別ノ義也詭味メルヘキ段也一スナホ直也天京小春ト云ハ十月ノ異名也出ニシタカハシ人ハ機嫌トハソレリキラウトヨム又機トハアツルトモヨム物ノ見合タテヲ云テエリキライヲスル事ヲ云也一病ヲウケ子ヲウシ死スル事此詞ニ句ニ見ルヘキ也病産死ノ三条ノ機嫌ニヨラスト云事也生住異滅是ノ四相ト云也生老病死ノ類也

藏乘法數曰四相有麤細 生老病死麤四相也 生住異滅細四相也

生トハ出生ノ處住トハ人間ニ居住メ老身トナ
ル異トハ病ノウケ異形ニナル滅トハ死去スル也

麤細ニ分ブ云ヘル

一夏ヨリステニ秋ハカヨヒ

引下クハ水ニ秋ヨソカヨフヲシムスフ泉ノテ廿ハハシキ

一十月ハ小春ノ天氣 小春ト云ハ十月ノ異名也

天時和暖ニメ似春故曰小春 楚歲時記

一 生老病死ノウツリ來ル事又コレニ過タリ

過タリトハ四季ハ定レル次第リ死期ノ來ル

事次第ヲマタス故ニ四季ノウツルヨリモハヤキ事

過タリト也

一ウシ口ニセハトハ死期ノ來ル事由斷無メ不慮

ニ來ル心也 結句ニ澳ノ于瀉ノ又トハタル尤也

大臣ノ大饗 大臣ノ官ニ任シ五シ時饗應也

一字治ノ左大臣殿 惡左府也保元ノ亂ニ失五

シ人也

賴長公知足院關白忠實公ノ二男法性寺

關白忠通公ノ第也

一東三條殿 四條院誕生ノ所或重明親王家

二條南町西南北二丁忠仁公ノ家貞仁

公大入道殿傳領長久四年四月晦日燒失

見拾遺抄

一他所一行幸アリケル

筆ヲトレハ物カ、レ

陳師道思亭記余以為目之所視而思從之

視于才思闕視刀鋸則思懼視廟社則思敬

視菜家則思安

一攤ウタニコトヲキモフ

木鏡 師輔公ノ傳ニタウタセタニフトアリ其文ニ

重六ノサタアリ双六ノ事ト見タリ

塩囊抄ニモ攤ノ事アリ双六博奕ノヤウニセタ

リ攤 廣句ニ他丹切タニノ音ナレトモタト世上ニ

ユイツナリ私曰攤ノ字恐ハ攤ノ字ナルヘ其

以ハ攤ノ字韻會ニ他于切手布也用也按也

云博奕ノ心ナシ攤ノ字直音曰音貪攤蒲賭

錢 又廣句曰攤他于切蒲賭博右攤ノ字

訓ニ博奕ノ心ナシ擲ノ字訓ニ賭博賭錢ハア
ホトニ双六ノ事ニ通ヘシ大鏡ニハタトカナニテ書タ
リ鹽囊抄ニ攤ノ字ヲ書誤歟又タンノ音ヲタト
云事ハ大鏡ノカナヲ據トス
一アカラサニカリソメニ也 白地
一繩床坐禪工夫ノ床也繩ヲ以テ作リタルソサウ
床也梵網經ニ菩薩ノ十八物アリ是其ノ一也
一不信トイフヘカラス心ニヨコラストテ捨ヘカラス散亂
ノ心ナカラモ數珠ヲトリ經ヲ誦セヨト云義也

世 盃ノ底スツル事

是ヨリ以下三段常ニ云事ノヤマリヲヌス也
一魚道也 魚ハ同シ道ヲトブル物也ト云説アリサ
ルホトニ口ノアタル所ヲ又酒ノトシシス、セ捨
ルト云理カ魚道ノ本文未考之
下學集云魚道者建殘盃也コホス以餘歷洗盃痕
喻之魚過舊道故云魚道也魚雖游泳大海
終不忘舊道者之是又出所未詳也

世 二ナムスヒトイフハ

二公家ノ上人袴或聖道ノケサナトノカサリニ系ヲ以結ヒサクルアリクシヲ云也

和名集河貝子美奈俗用蝻字非也

私ニ云ク兼好ニナムスヒワルシト云サレトモ和名集ニマナト訓スニ連聲相通ナルヘシ兼好ハ世俗ノ云ナラハシヲウケテ云其貝ノ假名ツカヒヲマナト書ト云所ニテ念ヲ入サル歟

門ニ額ウツト云ハヨカラ又ニ事ハマナリト云カクワツ大鏡ノ上實頼公ノ傳ニヨロツノヤシロニ額

ノカハリタルニトアリ實頼ハ小野官關白清慎公ノ事也

一勤解由小路ニ品禪門ハ世尊寺ノ行忠卿ノ事也

一護摩タク護摩ハ梵語也漢ニハ焚燒ト云サレ

ホトニタクト云ハ重言ト云理也

私曰重言モ梵語ハクルシカラ又ニヤ闕伽ノ水ト

歌ニモヨシタリ不審云

一清閑寺東山シル谷ノ近所ニタリ正六日當川

苗花ノサカリハ冬至ヨリ

一時正ヨリ後七日ト云ハ冬至ヨリ百五十六日ニ當ル也

一立春ヨリ七十五日ト云ハ冬至ヨリ百廿日也

冬至ヨリ百五十日ト云説トハ或三十日或四

十四五日違也三説之中毎年可試之事也

兼好ハ立春ヨリ七十五日ノ説ニ心ヲヨセタル

ト三八タル

遍照寺ノ承仕法師

僧止遍照ノ寺也

嵯峨廣澤ノ乾ノ方ニ舊跡アリ也宮關白齋

一使廳ハ出シタル檢非違使ノ廳也

一基俊大納言又我ノ一門基真ノ二男也

一別當檢非違使ノ別當也

其太衝ノ大人字

太衝ハ九月ノ異名也詳見于沉存中筆談卷

七太衝トハ者日月五星所出之門戸天之衝

也ト云又灸穴ニモ太衝之穴トアラレト云今コ、

ニ云ハ九月之別名ノ事ト云ルヘシ

此段常ニ書字ノ了ヤリヲ心ニカケサセシ爲ニ

例トメ一箇條ナシトモ舉タリ塩ノ字ノ類也俗
字ノ例~~五~~初卷ニアタ書ノセタリ常一覺
カタシ俗字ノアヤリ甚多可耻ノ

一モリ千カ入道

一吉平ハ安倍ノ晴明カ子吉平陰陽博士年八十
五卒

一ウラフミト占書ト云也占文ト書也名目ニ云時ハ
セシモノト云也

世出ノ人アヒアフ時ト

一黙止スル事ニシ黙止ハモクイハサル體也

一世間ノ浮説世上ニイフタシカナラ又説也アタコ

ト又今ノ俗ノイフサウセツナトノ類也

世アツニ人ノト

此段カクレナシ

一ワカ俗ニアラスシテ俗ノ字ノシカルハシ屬ノ字ナル

ヘシ我カ類ナラ又人ニシレハレハアシキト云事也

但俗ノ字ナラハ我カ國ノ風俗ニアラスシテト見ヘ
キ也

九人間ノイトナミアヘル

此段人間ノハカナキ喻也本説アルヘシ未考也
一安置シテシヤ 安置ハ兩字共ニシクトヨム也佛ヲ
ヨクスヘシカンヤト云心也

一道ニタツサハル人

此段家業ノ外我カ道ヲ又事ヲ善惡ノトリサタ
セ又カヨキト云也今私ヲ書ツクル事草子ノ本意
ニ相違也

一アヲ又道ノムシロト我カ道ニアラヌ也

一角アルモノ、角ヲカタフケ牙アルモノ、一怒ヲアラハ

レテ人ニミセタル體也

一善ニホコラス 論語顏回曰ク願無伐善無施勞

一物トアラソハス 論語子曰君子ハ與人不爭一

一シナノタカキ 位タカキ也 品倍也

一才藝 才智藝能也

一ソコハクノ罪 若手

一オヨニモニヘ 嗚呼シレモノナト世俗ニ云義歟

一イヒケタシイ、タサハル也 源氏ハ、キ木ノ卷ニ

光源氏名ノヨトクシクイヒケタレ給フトカキホカ

ル

一 道ニモ實ニ長シヌル人ハ實ノ字肝心也
一 コ、ロサシ常ニミタラズシテ、イ本ニミタスシテ曲禮ニ
志不可滿樂不可極

世 年老タル人ノ一事スクレタル

一 老ノカタウトシテ
一 スタレタル所ナキハ 一生其道ヲステスメツトヌタル
也アマリツタナキ也
一 シテシラヌ事、一シテノ詞尤也知タル事タニシラヌ
ヤワニメヨシ知ヌ事ヲ一シテ知タルカホスルウルサシ

何事ノシキトイフ事

一 後嵯峨ノ御代ニテ人王八十七代ノ帝也
一 建禮門院 高倉院ノ女院ヲ建禮門院永子ト
云イ本ニ建永ニ一院トアリ永ト禮ト門ト一ト書
寫ノ誤也此段ノ心ハ後嵯峨院ハ八十七代ノ
時分ニテ何事ノシキト云事ヲイハヌト云人アル
ヲイヤ其ヨリ六十年アリ前ニ後鳥羽院御位
ノ比出ノシキモカハリタル事ト云タル事ニテアルト
建禮門院ノ官女右京大夫ト云人カユイモトヒ
タル也人ノ云異説共ヌノハタル段也

一右京大夫トハ藤原ノ伊行カ女也歌人也三位
中將資盛十下、贈谷ノ歌アリ資盛心ヲ通ハセ
シ人トミユ

世サシタル事ナクテ

一入ノカリユタ、カリトハ人ノモトヘ行也
引思ヒカ子イモカリ行ハ冬ノ夜ノ河風寒ニ千鳥鳴ナリ
一ヤナシ心ニムカハ一ホシ、是ヨリ客來ノ了リ屍ノ冬
ヲアインカシブルワルキト云事ヲ論也
一阮籍カマヲキ眼阮籍ハ竹林ノ七賢ノ其一人也

怒ルトキハ白眼シナシ喜フトキハ青眼ヲナス也

晋書阮籍字嗣宗籍不拘禮教能為青白眼
對之及稽喜來弔籍作白眼喜不擇而退喜
弟康聞之乃齎酒挾琴造焉籍大悅乃見青
眼由是禮法之士疾之若讎籍時牽意獨駕
不田徑路車迹所窮輒慟哭而友

一ソノ事トナキニ人ノキテトヤカニ

是ハ人ノ所ヘ行テ問ナクサムルニ用ヲ當テ其事
ヲ叶ントテテハ心サハカシキ也夕ツ子慰ル計
ニ來リタルハウレシト云事也乍去當時、メキ物

イカカハシキ所ハサシタル用モ無テ長座シタル人ニ
ヨリテ惡カルヘキ也

一フニセ父シクキコエ子ハナト斗

是モ用事ナクテ音信斗ノ文ハ時メキタルイソカハ
シキ所ハ可有斟酌事也清少納言枕草子ニ
サハカシウ時メキタル所ニウチフルメキタル人ノヲノ
カツシクイイトニキホカルナラヒニ昔キホエテコトナル
コトナキ歌ヨミテキコセメルスサレトアリ此詞可
了見互見者也

世 貝ヲキホフ人ノ

一トシリヌヒス之也

一清獻公カコトハニ好事ヲ行シテ前程

言行錄後集上趙抃字閱道衢州人舉進士

事仁宗英宗 神宗 官至參政論清獻公

趙清獻座有銘行如事莫問前程

一風ニマタリ濕ニラシテ病ヲ神靈ニウタフル

本草衍義序曰當風卧濕反責他人失覆又

不能保養倉卒病生歸咎於神天

一ソノ化 德化也

一禹ノユキテ三苗ヲセイセシニ

三苗ハ國ノ名也禹ハ夏ノ禹也虞舜之時苗ノ民亂逆無道ニメ王化ニシタカハス因テ禹ニ命メ討セシム禹エイテ兵ヲカヘシ德ヲホトコス事七旬ニメ苗民來リ服スル事具ニ見尚書第二虞書大禹謨篇

蓋ワカキ時ハ血氣

論語曰君子有三戒少之時血氣未定戒之有色及其壯也血氣方剛戒之在闘及其老

也血氣既衰戒之在情

一情欲トハ七情六欲也

一玉ヲハシラシムルニ似タリ

前漢書曰如坂上走丸

一苔ノタモトハ隱遁之義也

一行ヲイサキヨクシテ行跡也

一スカタニ心イ本スケルカタニ心

一アハクヲロソカニシテアハクトハウスキ心也

精神氣血倏薄ニメ物ニ感動スル事ナキ也

共小野小町カ事キハメテ

無名抄曰業平朝臣カミヲハサムトテモリ居
ルケル程ニ歌枕トモニト數寄ニヨセテアツマノカ
クへ行ケルニ千ノクニイタリテヤソ鳩トイフ所ニヤト
リタリケル夜野中ニ歌ノ上句ヲ詠スル聲ノリ秋
風ノ吹ニツケテモアナムトイフアヤシク覺エテコエ
ヲ尋ツ、是ヲ求ニ更ニ人ナシタ、死人ノカウヘ一
アリテクル朝ナシユレヲミルニカノトクロノ目ノ壳ヨリ
薄一本生出タリケルカ風ノナヒクヲトノカクキコエ
ケレハノヤシクテアタリノ人ニ此事ヲ問或人語云

小野小町此國ニ下乃此所ニシテ命ヲ終ヌ則
頭是也ト云コ、ニ業平哀ニカナシタテ渡ヲ押テ
下句ヲ付タリ小野トハイハシス、キ生タリトソ付
タル其野ヲハ五造ノ小野トソ云ケルトソ侍五造
ノ小野同人カアラヌ物カト人ニキホツカナキ事ニ
申テノラソヒ侍ガ時人ノカタリ侍レ也

- 一五造 五造小野子壯衰書一冊十五六丁アリ
- 一清行 安部清行 古今作者二首也
- 一大師 承和ノバシ

弘法大師入定仁明御宇承和二年三月廿

一日也清行ハ延喜御宇弘法大師ハ仁明御
宇清行ヨリ五六十年モ前ニ入定アリタリ

今安五造ノ書考之年代前後ハ異論多シ恐ハ
弘法大師又清行カ作ト云事不審也

古今ノ卷十二ニシテツイツモテヲ小人ノウサシケ
ル日真サキ法師ノウシテイヘリケルコトハヲ歌

ニヨミテ小野小町カモトニツカハセリケル
アノキヨユキノ朝臣

ツメトモ袖ニタラヌ又白玉ハ人ヲミヌメノ緩成ケリ
返レ小町

ヨロカナル緩リ袖ニ玉ハナク我ハセキマヘス籠ツセテレハ
右清行小町ニツカハシケル歌ヲ以テミレハ同時
代一此玉造ノ書アリカタシ
此段又異説有テ知カタキ事ヲ述ル也

小鷹ニヨキ犬

一人事人間萬事ノシワサ也
一道ヲタノシムヨリ

孔子曰朝聞道夕死可道トハ一身ノ簡要ニメ
萬物至極ノ理也此道ノ會得メハ他事ヲハ捨

ヘシト云事也

世ニハ心工又事ヲホキ也

一ウルバシキ人モ 嚴重ノ義也

一キコカマシク 嗚呼

一生ヲヘタテタル 死タルヤウニト云義也 隔生即忘

一キホヤケ 公儀也 天事 ヲウヤケコト遊仙篇ニ

一カラキ目 辛勞下ルヌ也

一人ノ國 王異國ノ事

一アナリ 有ルナリ有ノ字ノ下略

一ヒモハツシ エホシノヒモ也 又裝束ニモカハルヘシ

一ニ 羞カラス 耻サル也 羞明ニハユシ

一アヒナキシ ワカナニエヒナキコソトアリ

賢トイフモノヨリ干酒ノニテエヒナキスルソニシテ有ラシ

引タ、ニ井テカタラヒスルハ酒ノニテエヒナキスルニナラシ

カスナリ

一我カ身イミシキ事 我身ヲマシタル事也

一イミシキハ善惡ニ通スル詞也コ、ハスケタル義也

一カタハライタク ヲカシク聞ニクキ事也

一バリアヒ 罵言ノル

百藥ノ長 説文曰桂江南之木百藥之長木也

御覽九百五十七
前漢書食貨志天鹽食者之將酒百藥之長也

一憂シワスルト酒ノ異名ヲ忘憂君ト云

茶能散悶為功淺萱道忘憂得力微朗詠酒

詩

一智慧ヲウシト善根ヲ燒事

一酒ヲトリテ人ニノセタル人五百生間

梵網經人說也

史記曰至禹時儀狄作酒禹飲而甘之曰後

世必有以酒亡國者遂疏儀狄云

白樂天酒之詞

酒是百藥之最長雖有十德之喜名乃失之起亦在斯先賢之禁尤可信都無存內損外損更無顧後悔後難凡不階走費心况羸弱秘計招辱心操放逸忘隱便行儀左道現尾籠不病如病惱身心不死如死失本心一醉之間拋万事大飲之極及狂亂錯仰良懶好休息媿食賞起致亂突為催一旦遊宴興徒暮多日醉卧暇惡鬼得便遇中天善衆靡離

無真加哀哉一期樂少益悲哉三途苦指掌
右白居易酒之詞トテ世ニ流布セリ今考於
白氏文集未見之來歷又シカナラサレトモ此
草子ノ文段ニヨクカナヒタル間書之

先カクウトニシ小キモノ物ナレト

前段ノ用捨也

一ク夕物菓栗柑子橘桃柿之類也

一之キ御酒日本記酒同或ハ神酒諸神ノ祭皆

酒ヲ供スル故也神ノ字ノミトヨム也以上河海

ニ見タリ又三寸トモ書酒ヲノミタル人邪風ヲ去

ル事三寸ト云ヨリ書之ト也寸ノ字ヲキトヨム事

ハ馬ノ寸ノ時モヨムソ

一サルイヘト上段ヲ引テ也

一アサ井シタル朝子シタル也

一引アケタル戸障子ナトアケタル也

一ヒキシロヒギ物ナトヒキツリモテ行也

古
黒戸ハ小松ノミカト

黒戸ハ籠口戸ノ西籠口戸ハ清涼殿ノ北ト云

一 小松ノ御門 人皇五十八代光孝天皇申
一 六ナナコト 無正事歟料理ナトメキコシメス事歟
御在位ノ君ニハマルシキ也

一 三カノ木 薪ノ事也

御薪諸卿ヨリ正月ニ禁裏へ薪ヲマイラセラル宮
内省ニ納メラル此事年中行事ニアリ

一 罽倉ノ中書王

中務卿 宗尊親王後嵯峨院第一皇子關
東ノ將軍也

一 吉田中納言萬里小路 又号吉田中納言藤房

一 彈或所ノサフラヒトモ

一 内侍所ノ御神樂 上卷ノ十六段ニ詳ニ注之

一 寶劍ノハ 御神樂行ル時内侍所へ行幸アル
其時持せ玉ハル御劍ヲハヒノ御座ノ御劍ト云

也ソレヲ不知ス寶劍ト云ヲカシキ事也三種ノ
神器ノ時ニ限リテ寶劍ト云也晝御座トハ清

涼殿ノ晝ノ御座也

一 フルキ典侍トハ内侍ヨリハ高官也

尚侍ナインノカニ典侍ナインノスケ内侍ナインノサカ

一 入宋ノ沙門道眼上人道眼ハ道元タハ人キ歟奥

二 見道元上人宋朝ニ入唐歸朝了リテノ事也

一 ヤク野ト云所

一 那蘭陀寺トカウス 天竺ノ寺号也上人歸朝之

名ヲ假テ号那蘭陀寺

多本

大學頭

帥中納言

一 江帥トハ大江ノ匡房卿也舉周一成衡一匡房

一 西域傳玄奘三藏渡天之記錄也十二卷アリ

一 法顯傳 法顯在藏渡天之人也奇妙多

元亨釋書曰東晉義熙之始法顯達於中

印度

釋道元姓源氏京兆人始謁建仁明菴為

法器後乘商舶入宋地見天童如淨禪師淨

付以曹洞宗旨歸來闢法干城南深草平副

帥時賴招以名藍不就乃如越州構精舍而

居名永平禪寺云建長五八二八化壽五

十四元亨釋書二見

此段金剛經ノ

文本來無東西ノ心ヲ以テ書タル歟

甲 四廿キ丁八正月 イ本ニ 三球打トリ

爆竹サキチヤウ 神異經曰西方人山中二有長一尺五寸
人也諸久見之病寒熱燒竹有聲驚去不來
左義長一說曰白馬寺佛經ハ左二置儒書ヲハ
右二置試放火烧左ノ佛經ハ不燒故法成就
也東土哉云々ト喝也 右之兩說

見于下學集本據雖未考之又以一說書之

五甲 理フレレククユユ雪

一讚岐介カ日記 讚岐典侍日記トテ三卷ノリ
女官ノ人ノ作也 介ノ字典典侍ナルヘシ

六甲 四條大納言隆親卿イマメ用ヨメ云也

四條隆季 隆房 隆衡 隆親權大納言檢
別當正二

七甲 人ツタ牛ヲバ 一律ノイマシメナリ 律令格式ノ禁也

八甲 相摸守時頼 關東執權第五代最明寺殿也
一守ヲイレ申サル、相摸守ヲ禪尼ノ亭ヘ請待也
一セウト 兄弟也

一ケイメイ 安嬪 遊仙窟 經營イトガム

一タカホニ敬命ハウヤニイシタカフ心也源語類二

一儉約ヲモト、ス 儉一トハイラ又事ヲ省略スル心也

論語注ニ去奢從約謂之儉

九甲城陸奥守ヤスモリハ

一シキヒジ 闇シキニ

辛吉田ト申馬乗ノ

已上二段ハ馬藝ニトツテ用心ヲ云也

一ハスヘカラス 逸足ヲトルヘカラス也

一萬ノ道ノ人タトヒ

一不堪 無器量也

一非家 万ノ道其家ニアラサル人也

辛アルモノ子シ法師

一世ワタルタツトキ カツキハタヨリ也

一坂ヲクタル輪ノコトク 世俗ニ老ノクタリ坂ト云類也

前漢書、如坂上走丸 師古曰言乘勢更易

一ミスホノス、キ

薄ノ事同サニテアノ侍也。スホリス、キニソ
ノス、キニソウノ薄トテニクサアリ。スホノ薄トハホ
ノナカクテ一尺斗アルヲイフ彼マス穂ハ萬葉集
二十寸穂ト書ソレニテ心得ヘシマソヨノス、キト云
ハ眞麻ノ心アリ。俊賴朝臣ヨミ侍ニソヨノイトヨ
クリカケテト侍ルカトヨイトナトノミタシタル様ナリ
ナクウノ薄トハ誠ニスハウ也ト云心也マスハウノス
スキトイフヘキヲ詞ヲ略シテ云也色フカキ薄ノ名
ナルヘシ。已上長明カ無名抄ニ詳也。前後略
之餘ハ此草子ニキナシ

一ワタノヘナル聖

一登蓮法師 詞花卷軸ノ作者

世ノ中ノ人ノ心ノウキ雲ニ空カクレスル有明ノ月

十敏時ハ功アリ 論語ノ陽貨篇ニアリ敏ハ疾也

一イフカシク思ヒテルヤウニ不審

一一大事因縁

諸佛世尊唯以一大事因縁故出現於世法

華一此一大事ノ三字摩訶止觀ノ第一二具

注釋アリ

三季 今日ハソノ事ヲナサン

誠今日ツ上一生ノ上ニカリ結句尤也

四季 メトイフモノノヨソキノコハ

一ウラタク 良タクヨキ心也

一アカ佛 吾ワカ佛也

手習ノ卷ニアカホトケ京ニイテ給ハ、コソイラメ

花鳥ニアカ佛ハ我カ佛也云々

一アカラサニカリソメ也

四季 夜ニ入テ物ノハナレ

一ハハ 花ナトニタハト云如シ 榮ハハ

一ヲヨスケタル桐囊ニヲヨスケキハスル助及日本記

源語類

一夜ノホカケ 火カケ

一ユスル 東ヤニユスルノナユリニヤ

休ユスル 河海ニ 私曰休カエマライ浴ユアフル

一スヘツ、 奥へ入事也スヘリ入也今モ禁中ニテ

女中ノ御前ヨリ局ヘツリ玉ヲスヘルト云也

五 神佛ニモ人ノテウテヌル

ニモト云ニ心ヲカケテ具ヘシ

七 聖クテキ人ノ人ヲハカリテ

愚闇ノ人ヲ云也

一 文字ノ法師 暗證ノ禪師 本文止觀ノ五ニ有

文字法師トハ教相ノ方ハカリニテ坐禪工夫ノ

多ク又法師也 暗證禪師トハ坐禪タテヲ入教

相ニクテキ禪師也

止觀ノ五ニハ暗證禪師誦文法師トアリ同事

一 タカヒニハカリテトハ 互ニ推量メ也

八 達人ノ人ヲニル眼

文選鵬鳥賦達人ハ大觀ス号物ト又無不可

一人ヲハカルニ 謀也

一 オナホニ 正直ニ也

九 或人又我ヲハテヲトリケルニ

一 久我内大臣殿 通基公也

一 ヨノツ子ニキハシマシケル時ハ 此詞ヲ以テ之

レハ亂心ニナラヒテノキヤウキト見タリ

東大寺ノ神輿東寺ノ若宮ヨリ

東大寺ノ御輿ヲ内裏ヘブル時其間東寺ニ御
コシ置事也此段前ノ餘論也此殿トハ我ノ
内府ヲ指テミルホトニ一段トナスヘキ事ナリトモ
隨身驚蹕ノ事ナトマルホトニ別段トナシタル歟
此前ニ資朝ノ事ヲ云トテ此人東寺ノト書タル
ヲモ別段トミル類ナルヘシ

千サキヲハレケル 隱聲サキユエ 河海

隨身ノ役也大將ノツレラレタル隨身ニサキノ
ヲハセフレタル也サキ聲アウンノ二字口傳アリ
ト也 意庵宗桂入唐メ異朝ニテ大人ノ行

啓ノ時ゾミルニサキノ、ウニハテツテレヘト舌頭ニテ
後聲ヲ引テ永トイフホトニ文字ヲ問タシ公道
ト云字ヲ書テミセタルト也又喝道人前呵警蹕
等倚モサキ聲也

一土御門相國 定實公也 又我ノ庶流
一警蹕サキノ事也 蹕 韻會曰本作趨

前漢書文三王傳曰得賜天子旌旗從千乘
萬騎出稱警入言趨注師古曰警者戒肅也
趨止行人也言出入者互文耳出亦有趨漢
儀注皇帝輦動左右侍帷幄者稱警出殿則

傳蹕止人清道也

一北山抄ホクサン公任卿ノ作也イ本ニ小野北野ナトアリ小野宮ノ抄ト云モ有リヨハ北山抄佳也

一西宮ノ説西宮記セイキウノキト云テ小抄モアリ西宮左大臣高明公作也河海ニ昔ハ内ノ

アリキニモサキヲイテリト云ニ用心ノタメ也變化ノ物モサキ聲ニキソルト云ヘリ西宮左大臣神泉

苑ノ良角ニテ變化ノ物ニアハレタルニサキノ聲スル時ハヒキ入ケルトアリ

右河海ノ文ヲ以テニレハ西宮ノ説ト云ハ變

化ノ物ノサキ聲ニシソレタル説ト云心ナルハシ西

宮記ヲ未見之推量ニナリハ今此段ニテハ西宮ノ説宜カルヘシ但西宮記ニ神泉苑ノ變化

ノ物ノ説アルニヤ追而可考也

一諸寺ノ僧ノミニアラス

一定額ノ女孺 定額シヤウカク

弘仁ノ文曰太政官府禁斷京畿畿内諸國私作伽藍事右奉勅定額諸寺其數有限私營作先既立制此來所司寬縱曾不紀察如

經年代無地不寺

是ハリタクシニ寺ヲヌツル事ヲ禁制ノ文也其寺
ノト數ヲ定メシカレトモ又人ノイトナニ作
ル間重而定メラル、義也定額ト小寺ノ名ヲハ
額ヲカクル物ナレハツノ外ニタツル事ヲ戒ムル故
ニ數ヲ定メラレタルヲイフナルヘシヨリ物ノ數
ノ定リタル事ノ定額ト云ツケタル歟兼好モ推
量シタルト文ニ見タリ
殲手鑑舊蔵作孺而遇切孺句會云儒遇切
乳子也幼少之稱或作殲

ヤウメイノステ

名ハカリ國ノ介ニナリタル者也

源氏三箇ノ一ノ大事也

猶除目ノ上ニ相傳アリト

一揚名目 目ハ介ヨリ下官也

一政事要略 百三十卷アリ 惟宗允亮撰

記公務交替糺彈雜事至要臨時雜事等

横川ノ行宣法印

坂本ノ北アノキト云所ニ住居メラルキ物語也

事ヲ并註抄六卷ニ書之

畔吳竹ハ葉ホソク河竹ハ

一御溝ニ千カキ禁庭ノ水也御溝ハカハミカウリ

ヨムヘラス六百番ノ佛名定家卿ノ歌ニ

河竹ノ靡葉風二年暮テ三世ノ佛ノ御名ヲ聞哉

仁壽殿シウテン或説ニシユニウ但常不用

拾芥抄曰仁壽殿南殿ノ北九間四面

卒退凡下乗ノ卒都婆

天竺ニテ摩訶陀國ノ大王頻婆沙羅王ト申セ

シ王ハ釋尊ノ大檀那也釋尊靈薨山ニシテ

説法シ玉ヒシ時ニ彼ノ大王靈山ヘ參詣ナサレ

タリ乗ヲ下テ佛ニ對メテ寧ノ禮ヲマラシ玉ヒタ

ル所ニ率都婆ヲ建テ末代マテ王ノ志シテ示スヲ

下乗ノ率都婆ト云ヒキ夫ヨリ上ヘ過テ又供奉

ノ衆ヲ還唯佛道ニ志シアル者ハカリテ召具メ參

詣シ五シ處ニ卒都婆ヲ建ケルヲ退凡ト申也

然レハ下乗ハソトニ當リ退凡ハ内當ル也

西域記九云如來御世垂五十年多居此山

廣說五ノ妙法頻婆沙羅王爲聞法故與發
人徒自山麓至峯岑跨谷凌巖編石爲階廣
十餘步長五六里中路有二小卒都婆一ノ
謂下乘即王至此徒行以進一ノ謂退凡即
簡凡人不可同往其山頂以上
卒都婆ハ梵語也漢ニハ高顯ト反譯シタソ

卒十月ヲ神無月ト云テ

一諸社ノ行幸其例モキホシ

拾芥抄曰松尾寛和元十月十四日

北野寛弘元十月廿一日吉延又三

年十月廿九日

卒勅勘ノ所ニ鞞カクル

一勅勘ハ天子ノ御意ニソムク事也

一鞞ハ矢ヲサス物也

一作法今ハタエテシル人ナシ

兼好カ時代ニサハ絶テミル人ナシシテ今ノ世ニハ

一世中サハカシキ時ハハ時氣疫癘ナトノヤル時也

一番督長檢非違使廳ノ彼官也六十六人

職原抄 檢非違使ノ下ニ當使ニ補有督長
十六人此為遣諸國也云
拷器ニヨセテ 拷五篇ニ苦老切打也

卒比叡山三大師勸請ノ起請トイフ事ハ慈慧

一慈慧僧正 釋良源姓木津氏近州淺井郡人
也母物氏夢坐海中向天上日光來入懷中
覺而孕延喜十二年九月三日生焉十二上
叡山師事理仙延長六年禮尊意登壇受戒
云康保三年八年補天台座主領山務者二

十年天元四年為大僧正兼法務聽輦車永

觀二年正月三日唱弥陀而滅年七十四賜

謚慈慧 元亨釋書

一法曹ニハ明法道トテ法度ヲ學ノ家也法家ト云

是也

一近代此事 流布シタリ 貞永ノ式目ナトノ類也

一法令ニハ水火ニ穢ヲタテス

此詞別段トナスヘキ歟不審之

卒德大寺ノ若大臣殿

一經文ノ紀ヲナフ

一花嚴院ノ弘舜僧正

一洋人ノ田ヲ論スル

此ノ類例世ニ多シ異朝ニモ世説ニ曰

孔文舉有二子大者六歲小者五出晝日父眠

小者床頭盜酒飲之大兒謂曰何以不拜荅曰

偷那得行禮

一三鳥ハ古ノ三鳥也相傳ララスニハ難知之

一招魂ノ法玉ニツリノ法也ヒトタニノ飛タルヲ

ナヒカヘス秘法也真言宗ニ是ヲ行也

招會曰之遙切手呼也以手曰招以言曰召

一萬事ハ頼ムヘカラス

此段尤可甘心事也

一イキホヒアリトテ威勢アリトテ也

秦ノ始皇ノ類是也

一孔子モ時ニアハス

論語曰道不行 乘桴浮於海

孔子壯歲ヨリ魯ヲ出テ諸國往還メ終不得志
ヲ六十餘歳ニメ魯ニ歸テ刪詩正樂脩春秋七十
餘歳ニメ感獲麟メ春秋絶筆

一 徳アリトテ 道德也

一 顔面モ不幸ナリキ

論語 哀公問曰弟子孰為好學孔子對曰
有顔回者好學不遷怒不貳過不幸短命死
矣今也則亡未聞好學者也

一 君ノ寵ヲモタノムヘカスス誅ヲウクル事

韓信 彭越ノ類是也

一 是ナル時ハヨロヒ兼好カ心ハ是ナル時モ悦ヘカラ

サル也サレトモ人情ヲタヌテ是ナル時ハ悦ト書

タル事面白シ

一 人ハ天地ノ靈也

尚書惟天地萬物父母惟人萬物之靈云

瑣碎録曰凡植物皆直生動物皆橫生人為

動物乃直生所以為萬物之靈若放倒則與

禽獸何異故君子必以禮義自持

一 寛大ニシテキハニラサル

人ヲ万物ノ靈長トノセテ云タルハ天地ハ力キ

所ガシト云リ其ノ如ク人モ寛大ニ又キハヤスサ
則ニハ喜怒スル事ナクハ万事ニワツライマルマシキ
ト也

五幸 秋ノ月ハカキリナクメテタキ物也

此段時節ノ相應ヲ感スヘキト也

六幸 御前ノ火爐ニ火ヲ

火爐 和名集ニ比多岐ト訓ス私云今コ、ニテ

ハヒタキトハヨムヘカラヌクハロトヨムヘシ其ニハハ

御辛ニ六条ノ院ヨリ御酒御ハスニ火口ナトタテ

ツラセ給ヘリトアリ 河海ニ傍書アリ

此段火ハ千ニ炭ヲ、キソユルニ御前ニテハ手ニテ

サシソユル事有識ノ通法也然ルヲ白キ物ヲキタル

時相違ノ事ヲ意得サスル也

七幸 想夫戀トイフ樂ハ

一晋主 儉 排韻

王儉字仲寶表粲曰此兒雖小已有棟梁之

器年十八拜秘書郎仕齊領吏部用庚果之

為長吏蕭沔與儉書曰庚景行泛水録水

落何其麗也時人以儉府為蓮華池
韻府ニ相府蓮又ハ笛ノ曲想夫憐アリ先ノ勻
ニ見タリ 相府蓮 于頔訝笛曲有相夫憐名
不雅客曰南朝製曲号想府蓮語訛尔即王
儉蓮華事也

于頔唐ノ宰相ナリ笛ノ曲ニ想夫憐アリ名カイ
ヤナアハシムナト、云テヨウモナイト云タフソレカ語
カアアマツテ想夫憐ト云タ事キヤト云タソ晋ノ王
儉カ蓮華ノ事ハ荷ノ字ノ下ニ有ト也

一廻忽モ カクシナシ

此段樂ノ名目覺悟トマラハスモノ也

平宣朝臣 大佛ノ奥州ノ事也此大佛ヲササ
キトヨム火アリ關東ニ今モ大佛ト云名字アリタ
イフツト云也

一最明寺入道 先代執權第五代平時頼也

一コトヤウ 異體ニテナリトモト云事也

一サウクシケレハ サヒシケレハ也

一クニハ 物ノカケクフキ所ク也

一其世ニハカクコソ 其時代ニハ如此ニヨソ儉

川丸ト也

此段并二下ノ段執柄ノ

カラ質素ヲ用テ奢ヲ極メサルノ教戒也

峰最明寺入道

一鶴岡 相州 錦倉八幡宮也

一ルシマウケセラレタリ 饗應了ルシマウケ

亭主シヨヲ出テト云心也

一隆辨僧正 鶴岡八幡宮ノ別當也將軍御不

例之時致祈禱加持依為効驗為恩賞拜領

美濃國岩籠郷被任僧正 吾妻鏡四十二見

一廿七年ヨトニ給ル足利ノ漆物 最明寺殿ノ詞也

足利ノ漆物トハ其地ニテソムル漆物成ヘシ加賀

漆ナト云類歟

一用意シヌセフラフトテ 左馬入道ノ詞也

一前ニテ女房共ニ小袖ニテウセサセテ

左馬ノ目ノ前ニテ念ヲ入テウスルトハ調ヘサセテ

後日ニツカハサレケリ進上タルヘキツツカハサルト書

事如何ノ前ニテヲ 最明寺殿ノ前ト云説了リ

カラハ御前ト書ヘキ歟

平アル火福長者

前漢書曰天地之大德曰生聖人之大寶曰位何以守位曰仁何以聚人曰財者帝王所以聚人守位養成群生奉順天德治國安民之本也

有限アル財ヲモクテ

通監汝以有限之財與以不可成之

一火ノカハケルニツキ水ノ

易說卦曰燥萬物者莫燥乎火潤萬物者莫

潤乎水ヨリ云

一宴飲聲色ヲコト、世ス

宴飲ハ酒宴也聲色ハ音樂ト色欲也

一抑人ハ是ヨリ上ヲキサヘテ道理ヲ論スル也

抑ト云字ノ心ヨク聞ヘタリ

一究竟ハ理即ニヒトシ

圓教ノ位ニ六即ト云事アリ理即名字即觀

行ト相似ト分身ト究竟ト是也理即トハ

佛法ノ名ヲモシラヌアラ凡夫乃至牛馬畜類ト

至マテ佛性ヲシナヘタルト云事ヲ云也究竟トハ

妙覺ノ佛也

一 大欲ハ無欲ニ似リ

聖濟總錄百九十九曰欲生則三尸生欲滅則三尸滅故至人曰欲者不欲不欲者欲ハ世俗ノ云大又ス人ハ小又ス人小又ス人ハ大又ス人ト云如シ 仁王經曰欲深過重 文 梵網經上云大欲ノ者惱少欲者不惱 文

一 狐ハ人ニ食ツクモノ也

一 堀川殿 父我ノ一門基具太政大臣号堀川

基俊大納言ノ父也

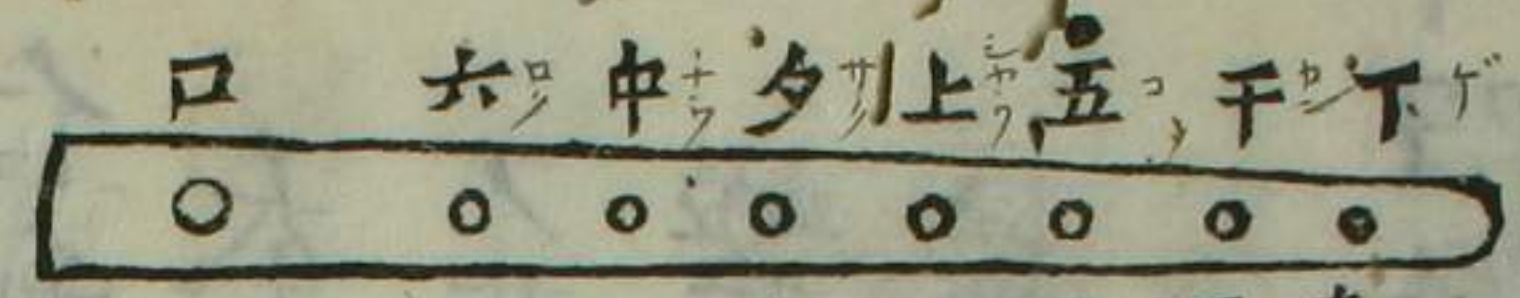
一 仁和寺ニテ夜ル本寺ノ前ヨ

本寺トハ今ノ仁和寺ヨリ北ノ方ニ野アリ本寺ノ舊跡タル故ニヤ今モ本寺野ト号龍安寺ヨリ嵯峨へ行ニ龍安寺ノ少シ西ノ方ニアル野之本寺ノ馬場ト云也此所ノ事也

一 四條黃門命セラレテ 此人箏吹也

一 龍秋 樂人ノ名也豐原氏箏ヲ吹家也地下也 豐ノ築後統秋カ先祖也豊ト云ハ豐原氏ヲ略 豊ト云也

短慮ノイタリキハメテ荒涼ノ事 是ヨリ龍秋カ詞也
 也短慮ハ卑下ノ詞也荒涼トハ過言ノ心也
 一コヨ笛 常ノ笛ヲ云也



此說ハ豐樂後統秋自筆ヲ以テ寫之
 上ノ圖ノ說ト少相違アリ追而可尋
 究者也

ニ七ツカニコシヲ存ス 是又龍秋カ卑下ノ詞也

一必ノクトハロヲノクル心也 吹サニロヲモ千ナヲ

ス心モ千也

一景茂 大神氏也 是モ地下ノ樂人也 笛吹也

八幡ノ山井ト云所ニ住ス

一呂律ノ物ニカナハルハ人ノトカ也

首楞嚴經曰譬如琴瑟笙篳篥雖有妙音

若無妙指終不能發汝與衆生亦復如是

以上ノ義景茂カ返答事外位ノアル云ヤウ也

此等ニ心ヲ付ヘキ事也我道ナラ又事ニハ少

及ハメ事アルト見ハタリ萬事用捨スヘキ教ナリ
何事モ邊土ノイヤシク 前ノ段餘論也

一當寺ノ樂 當寺トハ天王寺ヲサメ云也

沮槃會ハ 二月十五日也

一聖靈會ハ 同廿二日太子聖忌也

ルト今云モシラノルト云ニ同キ也

一黃鐘調ナルヘシ 是無常ノ調子

十二卷平家ノ發端ノ詞思ヒ出サル也

一西園寺 衣笠岡ノ良太政大臣公經ノ家

見拾芥抄

一法金剛院 舊跡ツキ山ノ南太秦ノ東ニアリ

拾芥抄曰 本名天安寺 待賢門院御建立

建治弘安ノ頃

人皇九十年代後宇多院ノ年号也

一ツリノ日 賀茂ノ祭日也

今ノ深草ニツリヲ見ルニ此草子ノモヤウニ似タリ

一放免 イ本ニ敬免放見何モワルニ放免タルヘキ歟

吾妻鏡ニ放免ト云役人所ニ見タリ今深草

一ツケ物ヲ以テ云ナラハ櫻町ノハウヘンウリ人類歟
一クモノイカキタル水干ニツケテ歌ノ心
クモノイミアレタル駒ハツナクトモトノ心歟
一道志トモノイ本ニ道者トアリ道人ノ心ナル歟道
志ナルヘシ道志トハ職原抄ニ凡志者奉行使廳
ノ諸公事也故ニ以當道爲其撰此爲道志也
道志トハ明法道ノ輩使廳ニナル志左右衛門志
也
一過差トハテヤリタカウ心歟衣服車馬以下皆法
令アリシレニ過タル心歟

一ツケ物 上ニモアリ放免ノツケ物トアリヨクシフ又
事也推量ニハ祭禮ノワタリモノニ色々ノ出立ヲ
メ身ノカサリニ物ヲトリツクル其ヤウナル事歟

評竹谷ノ乘願坊

此段沙石集ニ詳也略之

一東二條院 イ本ニ東二條院トアリ尤佳也
東二條院ト云ハ常盤井相國實氏公ノ御女
公子ノ御事也後深草院ノ后也
一稱名トハ念佛也名号トナフル云也

一巨益トハ巨ハ大也大ナル利益也

卒又ツノオホ井ノノ 系圖ニ六号月輪

後京極良經公ノ三男九條前内府基家公
号鶴殿 井阿抄 又号砂金大臣殿云式系

圖ニアリ

仲陰陽師有宗入道

改一仲陰陽頭正三

安倍晴明十四代孫有重カ男有宗 晴明日

ハ八十五代也

一タツ子マウテ來シカ 兼好へ尋テ來タル也

ハ多ク資力申ケル 舞人也多ハ氏也

此段白拍子根源ヲソフハ世リ但ハ平家物語

ノ説トハ相違アリ何ノ道ニモ異説アルモノニヤ

一通憲入道少納言入道メ号信西達諸道才

人也平治元年十二月十三日信賴卿亂逆

事見天變兼知彼災瑞入大和國多原山自

害入棺不死之前被掘埋土同月十五日伊

賀守光保尋出此所注進依信賴卿命即掘

出屍骸斬首渡大路被梟獄門畢

一 磯ノ禪師トイヒケル女ニシツカ也

一 廿ウニキヲサセサヤニキ也

一 シツカトイヒケル義經ノ最愛ノリノ女也

一 佛神ノ本縁ヲ縁起也

一 源光行河内守大監物語源氏物語河内本此

一 本ノ所為也

以源氏八本校合之云當時不用此本ヲ

一 カメ菊ニフシヘサセ給

後鳥羽院ノ御時

信濃前司行長

一七德舞

貞觀七年正月更名破陣樂七德舞 白氏

文集注 太宗為秦王破劉武國軍中相與

作秦王破陣樂曲及即位宴會必奏之以百

廿八人被銀甲執戟而舞凡三變每變為四

陣象擊刺往來後更名七德舞

十八史略曰唐太宗七年宴玄武門奏七德

注曰秦王破陣樂曲更名七德舞七德者蓋取

禁暴戢兵保大定功安民和衆豐財之義也

左傳宣公十二年又武二十七德ノ文アル同之

一慈鎮和尚法性寺關白忠通公ノ御子也山

門六十二代座主始諱道快養和元十一

六改名慈圓又壽二巳亥四十五誕生嘉祿

元九廿五入滅七十一歲嘉禎三三八諡号

慈鎮滅後十三年

一廿テ山門ノ事ヲ慈鎮和尚ニ召置シタル故ニ

シク書タリ

此段平家物語ノ作者ヲアラハセリ但シ勸修寺

良門ノ十五世之孫葉室ノ時長ト云人平家

物語ノ作者隨一ト云事ヲ公卿補任ニ見タリ

サレハ四十八卷平家ノ作者ナルカ隨一トアル

時ハナヲモ作人アルヘシ此信濃前司行長八十

二卷平家ノ作者ト見ヘシ

又誰人作ヤラン平家勸文ト云一冊アリ是

ニ其人ノ作者ヲアラハセリ時代巳下空泥ノ相

違多シ故ニ不用之

一蒲冠者三川守範賴從五下於遠州蒲生御

厨出生之間号一賴朝ノ弟也文治二於

伊豆比條依舎兄源二位命被討畢

六時禮讚法然上人

此段今蓮生宗へタツヌルニ異説アリ六時二念佛ヲ勸ル事晋ノ慧遠法師根本也其後唐ノ代善導六時禮讚ノ偈ヲ集メ記セラル也安樂作ト云事不審也

一安樂法然上人ノ弟子也住蓮安樂トテ兩人アリ後鳥羽院ノ時別時念佛ヲ始メ六時禮讚ヲ勸トメ聽衆アリタツム時ニ官女發心メ出家ヲナセシ事後鳥羽院逆鱗ナサレ住蓮安樂ヲ罪科ニ行ル六條河原ニテ官人秀能ニ仰テ安樂

ヲキラルト也

一後嵯峨院ノ人王八十七代也
一法事讚 上下二卷アリ善導ノ作也ハカセヲ付タル事善觀坊ヨリ始ル歟

一千本ノ釋迦念佛

一文永 八十九代龜山院ノ年号也

一如輪上人

一ヨキ細工

一二ノキ刀 一古文眞寶鎮耶爲鈍号金刀爲銚

淮南子云鑊耶斷割砥礪之刀

一妙觀

一五條内裏二南朝後醍醐ノ時代也

一藤大納言 為世卿ナルヘシ

一未練ノキツ子一イニ又功ノイラヌ狐也

一^平園別當入道

基氏卿天福二十一十

一七上辞狀出家之法名圓空

一サウナギ ナラヒモナキ也

一庖丁シナリ 本朝庖丁ノ元祖ハ四糸家ノ庶流

一山蔭ノ中納言ト云人也

莊子曰庖丁為文惠君解牛手之所觸肩之所倚足之所履膝之所踣晝然嚮然奏刀騞然莫不中音合於桑林之舞乃中經首之會
文惠君曰善善哉技蓋到此乎

一百日ノ鯉 毎日百日ノ間鯉ヲキラント捨願シタ

ル歟物ノ稽古二百日行ニスル類ナルヘシ

一タメラヒテ 猶豫タメロウ

一ニマケテ申ウケヌ是非共申ウケント也

一北山ノ太政入道殿 西園寺殿也 公經公号

西園寺相國又現存時号一条太政大臣
響應ナトモ響應アルニウケトヨムアルニストモ

醉スヘテ人ハ無智無能 此段不審多

一史書ノ文ヲヒギタモシ 史記漢書又書筆ノ類也

一十ウツノ以落タリシ 十ウハ柱ノ字也筆サウノコト

和琴ニテハ柱ヲコトキトヨシ琵琶ノ時ハカリ柱ヲ

チウト音ニ云也琵琶ノ緒ヲノスル木也樂人ノ

琵琶ノ柱ハ四ツアリ琵琶法師ノ柱ハ五ツ也

私曰落タリシト云ヲタラヌト心得ヘキ事也

瓜ヲキホシタリ 瓜ヲ生長シタリト云心也

假名文字遣ノ書ニキ、シタツル 生長ト書

一ヒハナトヒクニコソ 不審也瓜ニテ引ハ箏ニテコソ

アル但琵琶ヲモ瓜ニテ引事ヤアル撥ニテコソ琵琶

ヲ引ハヒケヒハナトアルヲコトナト云タルモノ歟未

決云 藻鹽草曰ツマヒキ瓜引也ヒハナハ千

ナラテ瓜ニテ引也源氏紅梅ニ

一ヒサクノエハヒモノ木トカヤ

杓 和名集曰音酌比佐古斟水器也

世俗柄杓ト柄ノ字ヲ加ル非也杓ハ字ヲヒサク

ト訓ス此ヲ以テシルヘシ

トトシヤクノ柄世モノ師ナトノモテアツカウ木ニテヨカ
ラヌイヤシキナト云心ナルヘシ

一所エタル氣色下ハ物ナレテシテモツキリカホナルヲ云

粹人ノ物界ニヒタルニ

此段人ノツキアヒ世間常住ノタシナニヲ勸ル也

一シラスシモアラシ 問人カシライテ問ニテハアルニハト

云義也

セウテ、カニヤハラカニ何トモナウ也

以テ返シトヒニヤルコソ

トヒニ來ルコソト心得タレハヨク合點スル也

一物ナレヌ人 切ノイラヌ人也

粹又シル家ニハス、口ナル人

無端ス、口河海

此段心性ヲ論スル也尤眼ヲ付ヘキ也

一コタマナトイフ 山彦コタマ 木神同 空谷響同

樹神同口、ニテハハケ物ナトノヤウニ心得タル歟

蓬生ノ卷ニテ書タリ

一又鏡ニハ色カダ千ナキニハニ萬ノ影來リ

臨濟錄云心隨萬境轉

源氏蓬生其力之シモ人カス、クナク成行モトヨリ

アセタリシ宮ノウキイト、キツ子ノスミカトナリテウト

ニシウケトヲキ木タキニフクロフノ、ミサア甘エフニミ

ミナラシツ、人ケニコソサヤウノ物モ世カレテカケカ

クシタヒタナトケシカラヌモノトモトコロエテヤウク

カタチアラハシテ物ワヒシ

性理大全三十立心下曰潛室陳氏曰人心

如鏡物來則應物去依舊自在不曾迎物之

來亦不曾送物之去只是定而應應而定問

明道言中有主則實實則外患不能入伊川

曰心有主則虛之則邪不能入無主則實之則

物來奪之所主不同何也曰有主則實謂有

主人在內先實其屋外客不能入故謂之實

有主則虛謂外客不能入只有主人自在故

又謂之虛知惟實故虛蓋心既誠敬則自然

虛明

八舟波ニ出雲下イフ所

此段又ハリイラヌ所ニテ氣ヲ付タテヲスル教戒

也

一シタハナニカシ 志太ノ字乎

聖海上人

柳若言ニスル物ハ

柳若トハ硯短冊或鞠冠或又進善ノ時ニ經卷
等ヲ居ル臺也柳ヲ以テ造之故ノ名也ケタノ木
ノ數事重半ノ義其家ノ説アリ御短冊ヲスエ
テ進上之時冷泉家ニハ重ニコシラヘラル由也
三条三光院ノ相傳トテ依重半有吉凶之儀
吉事ニハ半ヲ用テ追善ノ時經卷ナト居ルニハ
重ヲ用ラルト也此段ニ物ヲスルニテハ

コサマノ兩説アル如ク其家ノ相承ノ也ハキ歟

二三條右大臣殿 兼好時代ノ説ト聞ク然ルニ三
條家系圖或以公卿補任等考之右大臣或
左大臣ニテモナシ未決也

勤解由小路 世尊寺ト云能書ノ家也行成
卿ノ子孫也

百御隨身近友カ自讚トテ

此段ハ近友ト云モノ自讚七箇條アル也ソレハ
サセル事ナシ今兼好カ自讚ハヨキト云事ニハア
ラズ近友カ自讚モサセル事ナキヲ七箇條ノヨシ

ヲケリ兼好モサセル事ナキ子自讚ヲ七條書ト云先例ヲ下リテ書ト也

最勝光院

十當代イマタ茲ニオハシマシ、比

當代トハ後醍醐院カ光明院カナルヘシ

○萬里小路殿ノ御所ナリシ 里内裏ニヤ

○堀川大納言殿トハ師信公也後醍醐春宮ノ御

時ノ大夫也師繼公子也花山ノ庶流号堀川

○定家卿ニ尋テ

秋ノ野ノ草ノ夕モトカ花ス、キ一在原棟梁歌也

定家ノ自讚ノ事未考之

歛狀ニモ禁中へ官ナト望ム時ノ由狀也クハ

著ナレトモクハシヤウトヨムヘキ由アル有識ノ人ノ

説也

一常在光院 相國寺之末寺舊跡東山ニアリ

在兼卿 叅議正二位在兼卿唐橋ノ祖在

忠カ弟輔方八世ノ孫也菅家也

草也ハ鐘ノ銘ヲ下書セラレタル也詠草ナリ云

如シ

○行房卿 世尊寺行成卿三十一代ノ孫經尹ノ

息ノ行興卿ノ弟也

○子ノ名カ高名ナリトハ奉行ノ入道カ詞也

○數行 行ノ字陽唐ニモ庚耕清ニモ入リ陽唐ノ

勻ニテハ字トタリ也又雁ノツヲナト也ユクト云

心ナシ庚耕清ノ韻ニテ全クトヨム也

○數行モイカナルヘキニカ若數歩ノ心カホツカナシト

云タルハ此韻陽唐ナシハ行歩ノ心ヲホツカサレ

ト云タル也庚耕清ニユツ行歩ノ心アルニト云兼

好カ心也

○私曰數行猶不審一ハトアリ此私書誰人加

タルニヤ註興云

一人アリタルヒナヒ

○三塔順禮 三塔トハ東塔 西塔横川也

○佐理 行成

正三位前太宰大貳參議 佐理卿小野宮

孫一条院御宇長德四年七月晦薨五十五

歲公卿補任考之

正二位太宰權帥權大納言行成卿

圓融院御宇天祿三年誕生後一條院萬壽

三年二月四日薨五十六公卿補任
那蘭陀系二テ道眼一ノ道元歟上四十三段
身道元上人入宋沙門也元其釋書三傳アリ
八災ノ憂 苦喜樂 尋伺 出息入息
以上ノ法 藏乘法數二見アリ
所化ノ六門弟也能化所化トテ能化ハ師所化
弟子也
賢字ナルハニ日野家ヨリ出クル者ナリ時代相應
顯助僧也醍醐ノ三寶院也後七日ノ法ノ時
儀也

加持香氷 正月八日ヨリ十五日ノ朝テ御
祈禱ノ結事アリ其間ニ三度アル加持也上卷
ノ十二段後七日ト云注ニ詳也
加持トハ加者佛ノ三密也持者行者ノ三業
也彼ノ三密ノ此ノ三業ニ持タルヲ加持ト云
也 見河海

一二月十五日
在本人寺 釋迦堂也
聽聞侍 遺教經ノ法事ヲ聽聞ナルハ
トニアシ 便タヨリアシキ也

ソノ、キアル御所ノト云ヨリ千本ノ寺ヨリ
ル事ヲ云也後日ノ事也

百八月十五日九月十三日

十婁宿 婁ス二十八宿ノ一ツ也宿ノ字星ノ名

時ハ音秀トアルホトニ二十八宿トヨムハキ事也ト

偏ニ心得タルニ考會ヲ宿書洪範三日星

辰注皇宿音夙亦音秀ノ説ヲ以テ見レ

クトセシトモ兩義難クハカラス

婁宿ノ清明ノ義未考之

指忍ノノ浦

一信夫ノ浦 奥州郡ノ名也

此ノ發端ノ詞忍ノト云事ヲ云ニ爲也

引打ニテタルシキ物ハ人メノ之シノフノウラノノ、ノタノハ

一所セク 所トユロセハキ也 原語類一

一クラノ山 山城ノ名所也暗部山下書也鞍馬

同所ニ見タリ

梅ノ花自今春ハタラフ山ヤニユレトシルクソ有

一ハラカラ 兄弟也

一イトハユカリヌヘシ。ヤヤ兄弟ヨクシリテモ、
一ハツカカカリナシキ云義也。

一母マアリケフルト。是ヨリ別段ニナシタルイ本アリ

一何レニテモアルヘシ。

一ニキハ、シキ。富儀也。豊饒ニキハ、

一アヌ人。田舎人ト云心也。

一サツフ水アラハ。

一ワヒヌシハ身ヌウキ草ノ子ヲ絶テサツフ水アラハイナントソ

思フ。小町カ歌也。古今ニ文屋ノマシヒテ

カニ河ノツウニナリテアカクニニハエイテカハシヤ

トイヒカヒリケル返事ニヨメルトアリ

一ナカ人イツカタモ心ニクキサマニイヒナシ

一神人虚言ハ昔ヨリヤアリケン

一アイナサヨ。無愛。アチキナサヨ也。

一カケユシハ。山ノナトモ

一筑波山ハ山モケ山シケ、レト思入ニサハラサリケル

一梅ノ花カウカシキ夜

一是ヨリ小段ヲ立テミルヘキ也

一ミカキカ原。皇居ナトノ古跡ヲ云也。

諸モ千ツキカトカナル 望月

心ヲヨク付又人ハ一夜ノ間ニ

リカクル事ハアルイト思フ也

十道ヲ修セテ佛道ヲ修セント也

一如幻ノ生ノ中ニ

如夢幻泡影 金剛經ノ文也

一放下シテ 截斷也

略トシテ十八ノ違順ニツカハル

此段 遠禪師ノ頌ノ心ヲ以テ書タル歎

報縁虚幻不可強為浮世幾多隨家豊儉苦

樂逆順道在其中動靜寒温自愧自悔

五前 八二十リシ年

此段 經佛先後ノ法門ヲ沙汰スル也

釋氏要覽中曰佛ノ法ト先後 報恩經曰佛

以法為師佛從法生法是佛母佛依法注於

三寶中何不以法為初佛言法難是佛師而

非佛不弘所謂道由人弘是故佛先法後也

矣

天台證真私記略曰

問有最初不受教自悟佛不答自古來有二
義知禮歟曰最初一佛即有內薰之司何墮
無司故說一曰無教之時則內薰自悟云又
古德多云無自悟佛記又是假設非問義所
以云不可以此為窮故大法鼓經曰迦葉曰
佛一切無始佛誰化誰教佛言無始者非二
乘菩薩所知如佛無起難得知眾生無起
亦復如是略抄亦起信論曰雖有正因薰習

之力若不遇佛菩薩等能自斷煩惱入涅槃
者則無是處文亦華嚴經無盡藏品云何等
為無記法謂世間邊無邊等何等如來最初
出世何等眾生最初生何等如來最後出世
何等眾生最後生云共許有最初佛亦時應
佛少眾生多耶 教文明眾生與佛無盡相
違矣 亦未悟前但有眾生應無佛界耶

此抄者壽命院法立安凌醫家救療之暇磨目
遠聞而漸終篇予披覽最奇之餘揮短毫聊
錄事狀耳

慶長第六辛丑孟冬初九也中院通勝是叟素然

慶長九曆闕逢執除姑洗良辰

日東洛陽如菴宗乾刊行

